

子が生成AIを学習に利用することへの親の考え

- 水野 一成 (株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所)
- 近藤 勢津子 (株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所)

小中学生が安心、安全にICTを活用する GIGAスクール構想の促進と課題の洗い出し

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
時期	2018年11月	2019年11月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月
サンプル数	500	1000	1100	500	600	600	1300
方式	訪問留置						
対象	関東	全国	全国	関東	関東	関東	全国

調査時期	2024.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	全国 小中学生とその親
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数数	1,300組



初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】

教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



1. 生成AIについて

生成AIの概要



- 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称
- 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入
- 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展

2. 基本的な考え方

人間中心の利活用



- 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要
- 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用
- 学びの専門職としての教師の役割が一層重要

情報活用能力の育成強化



- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

教職員が校務で利活用する場面



- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

児童生徒が学習活動で利活用する場面



- 発達段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

教育委員会等が押さえておくべきポイント



- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じるが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

共通して押さえておくべきポイント

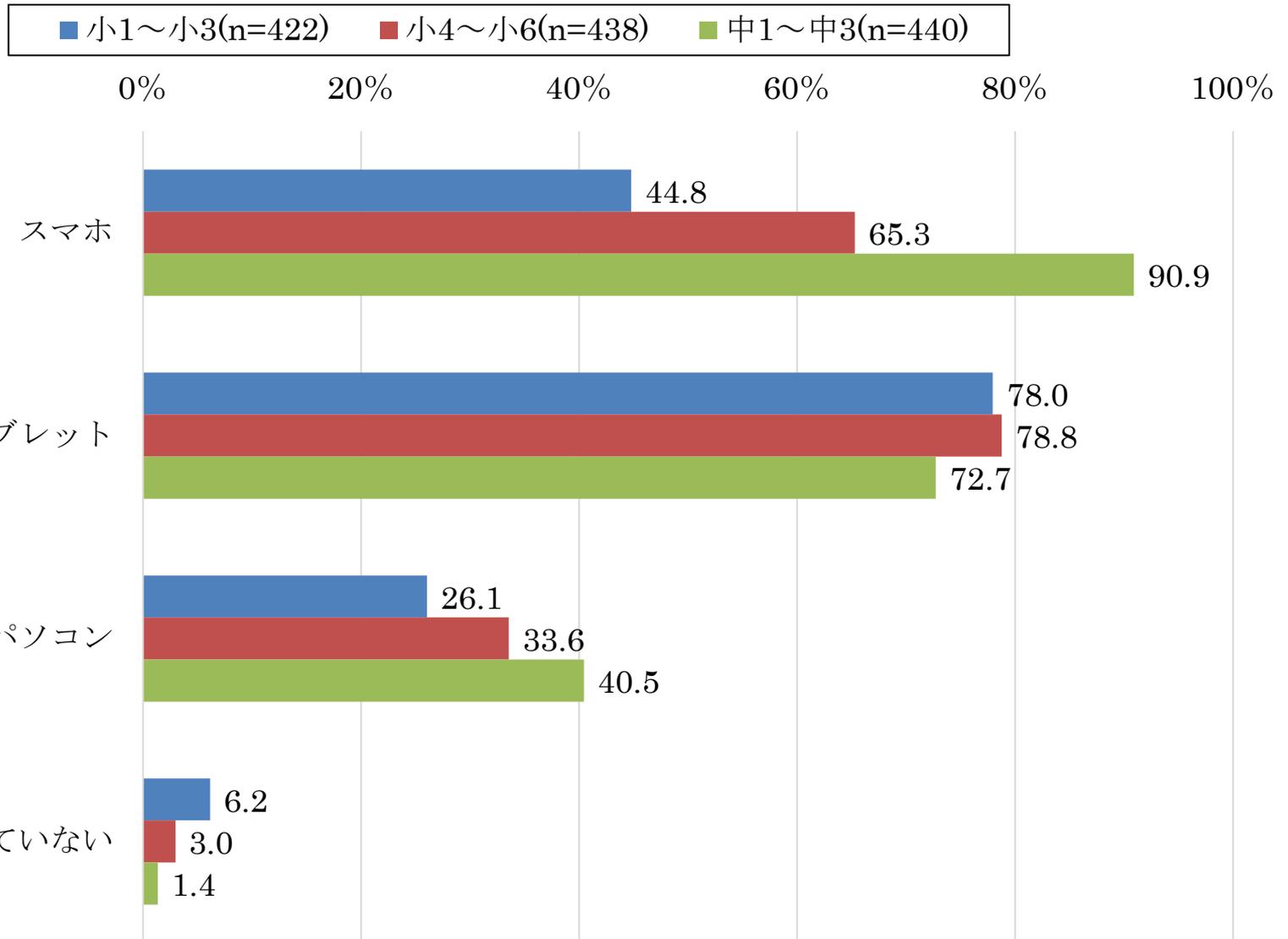


- 安全性を考慮した適正利用
- 情報セキュリティの確保
- 個人情報・プライバシー著作権の保護
- 公平性の確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任

参考資料編

- 各場面や主体に応じたチェック項目、生成AIパイロット校における先行取組事例、学校現場において活用可能な研修教材 等

多くの子が情報機器を利用している



目的

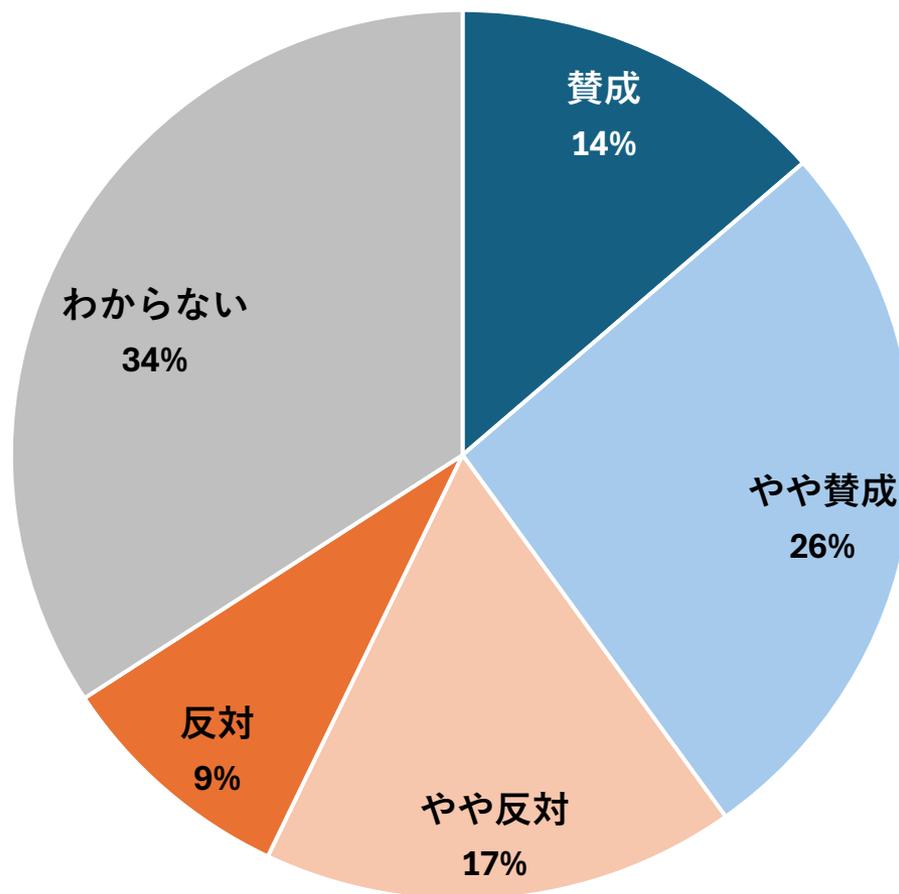
小中学生が生成AIを学習へ利用することへの親の賛否を
「親の生成AIの理解度」と「学習利用への考え方」で明らかにする

調査概要

調査時期	2024.11
調査方法	訪問留置法
調査対象	全国 小中学生とその親
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数	1300組

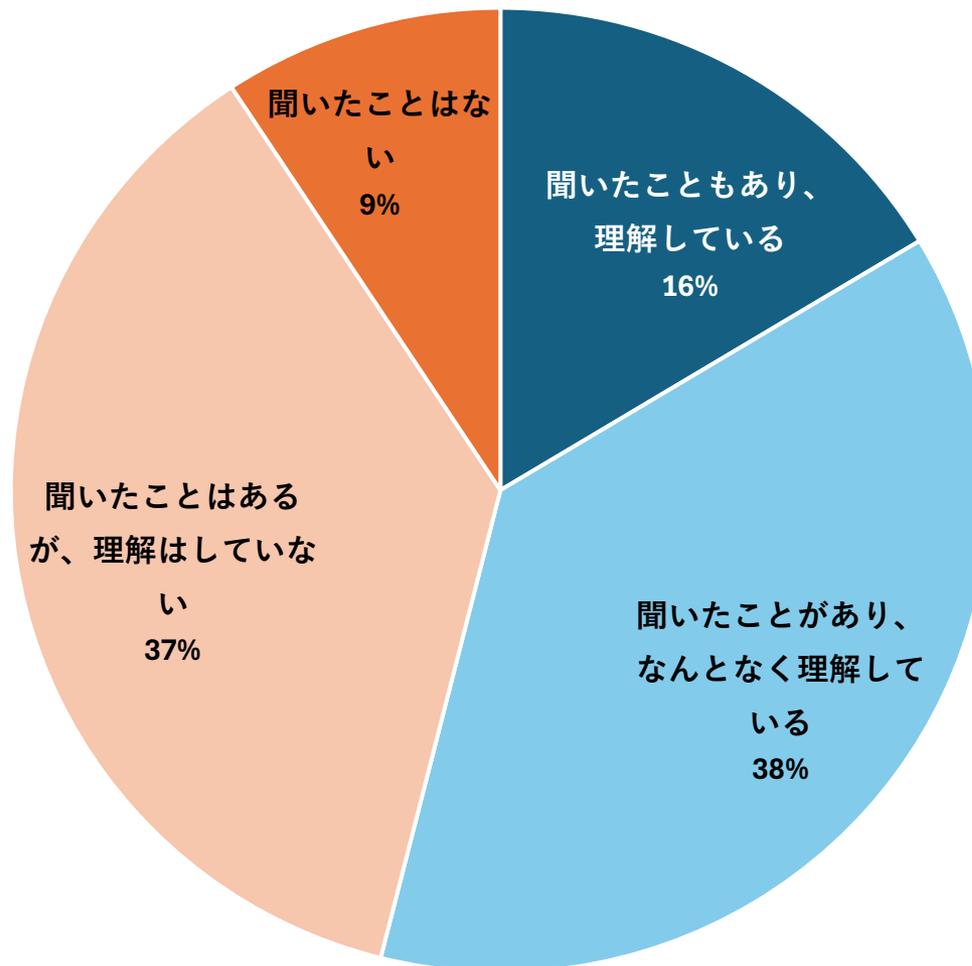
子の学習への生成AIの利用「賛成40%」「反対26%」「わからない34%」

【親】子が生成AIを学習で活用することへの賛否

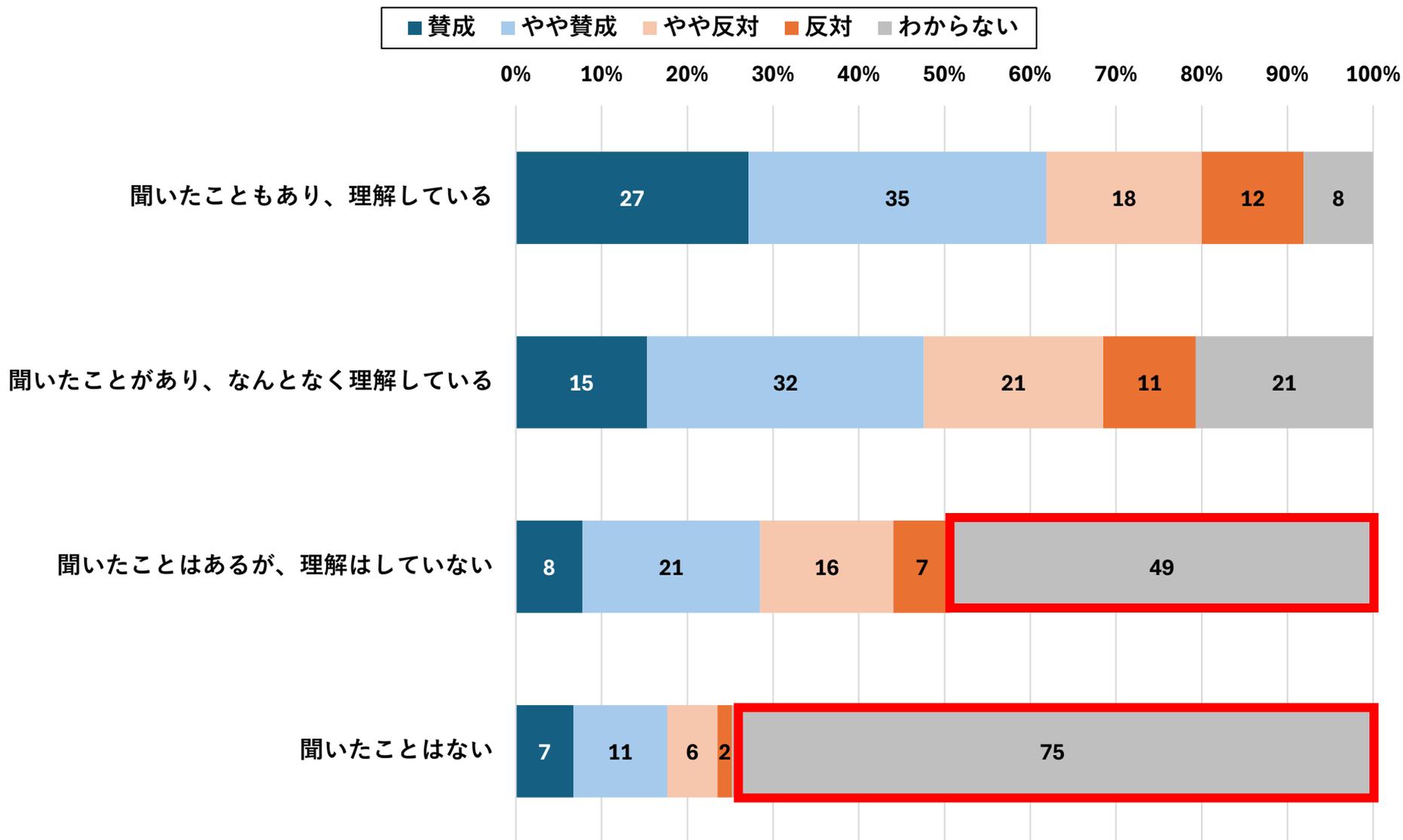


生成AIについて54%の小中学生の親が理解している

【親】生成AIについて、どの程度理解しているか



生成AIについて理解している親は学習利用に「賛否」、理解していない親は「わからない」が多い



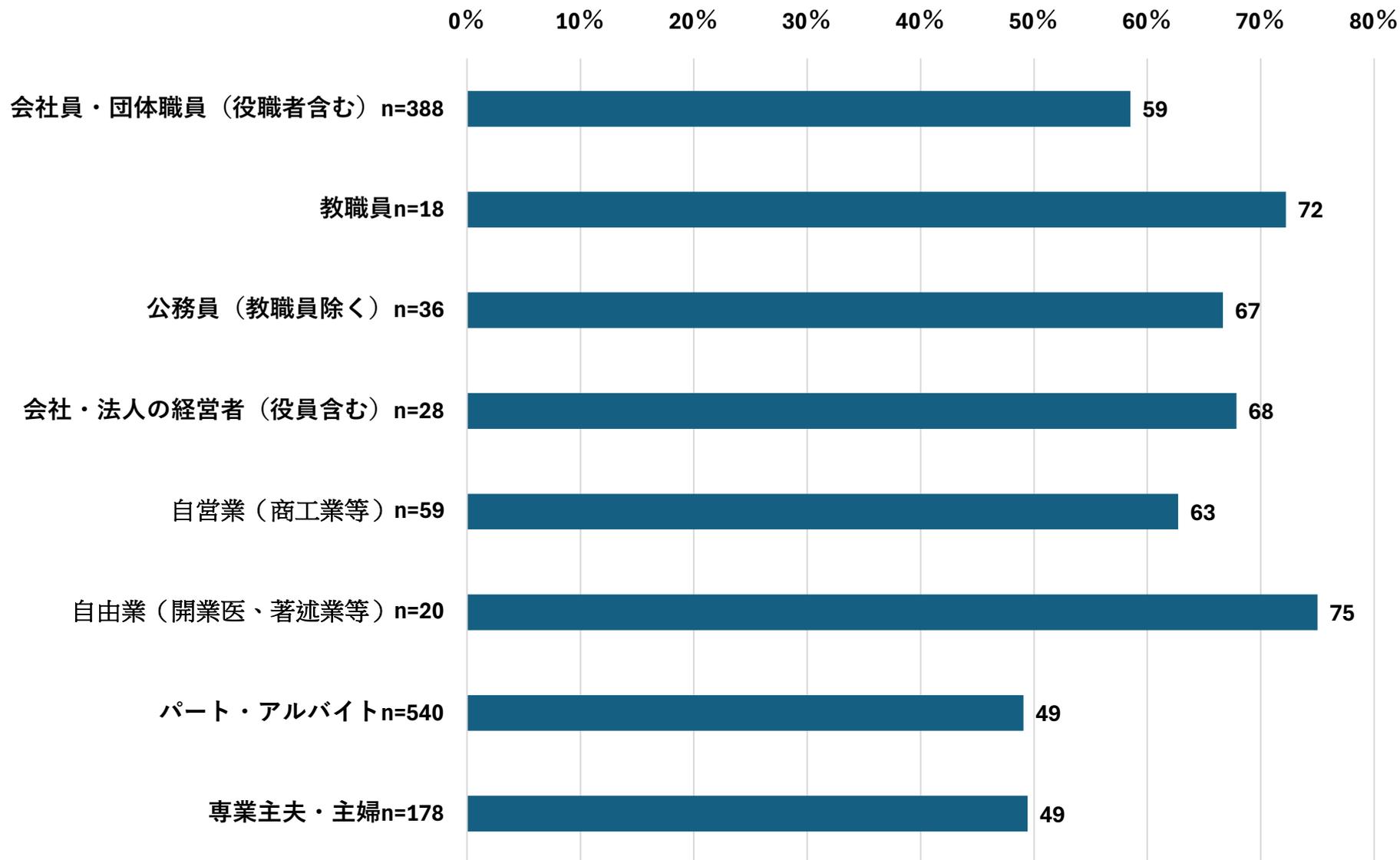
職業（性別・年収にも相関）との相関が高い

		n	理解している人の割合(%)	p 値
居住地域の都市規模	政令市及び特別区	360	58.6	
	20万以上市	330	54.8	
	10万以上市	230	50.9	
	10万未満	376	50.5	
居住地域	北海道・東北	140	45.7	
	関東	429	59.2	
	北陸・甲信越	80	45.0	
	東海	170	59.4	
	近畿	209	50.2	
	中国・四国	108	53.7	
	九州・沖縄	160	50.6	
性別	男性	204	66.7	<.001***
	女性	1092	51.6	
年代	30歳未満	17	47.1	0.028**
	30～34歳	89	48.3	
	35～39歳	285	49.5	
	40～44歳	461	53.8	
	45～49歳	321	55.8	
	50歳以上	118	66.1	

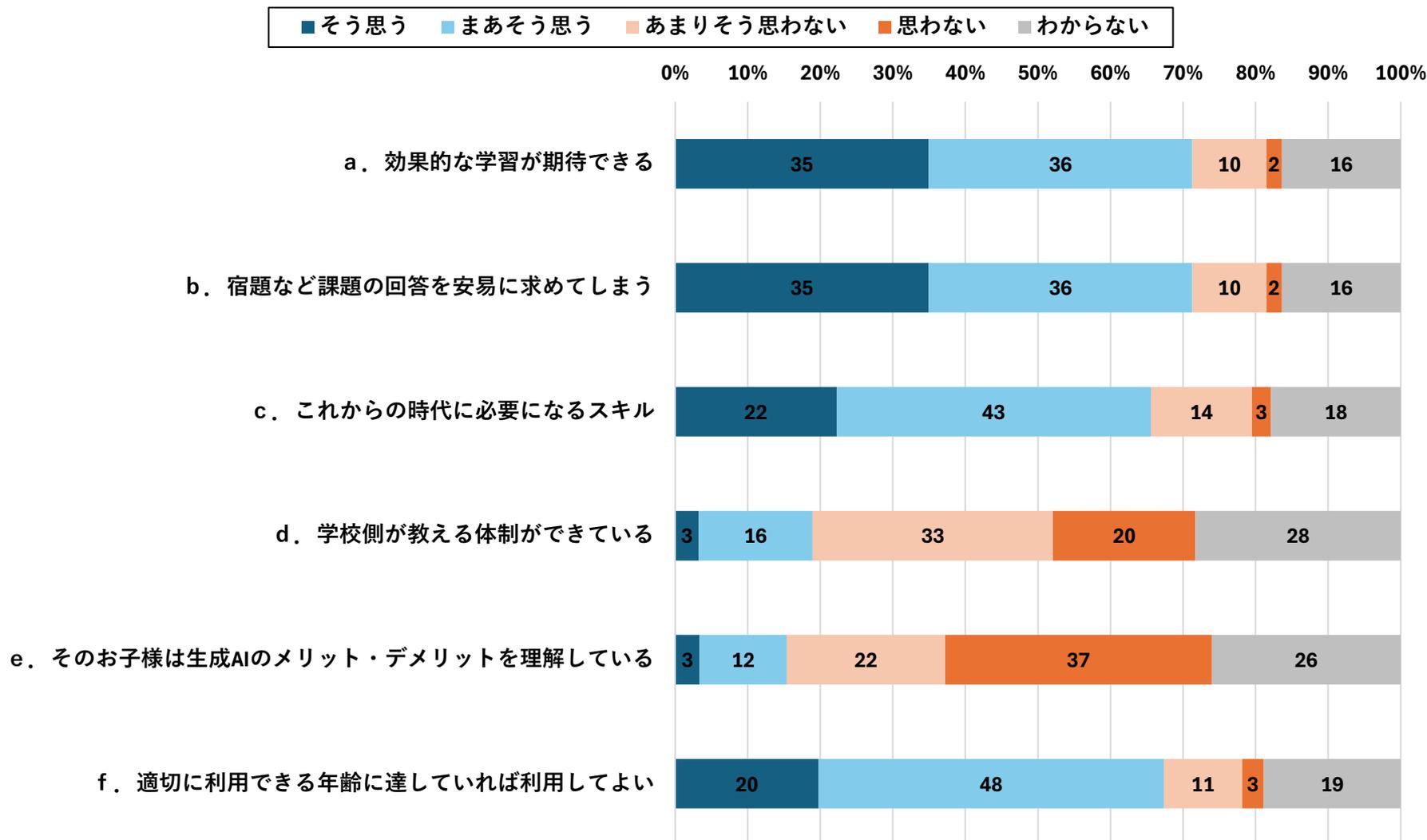
職業（性別・学歴・年収にも相関）との相関が高い

		n	理解している人の割合(%)	p 値
学歴	中学校	55	49.1	0.046 * <0.001* ** * <0.001* ** * 0.023*
	高等学校	406	44.8	
	短大・専門学校・各種学校	467	51.8	
	大学・大学院	364	67.6	
世帯年収	400万未満	162	42.6	<0.001* ** * <0.001* ** * 0.003 * ** 0.023* <0.001* ** *
	700万未満	374	53.2	
	1000万未満	282	55.3	
	1000万以上	138	73.9	
	わからない/答えたくない	340	50.9	
職業	正規社員	470	60.2	0.041* 0.023* 0.002* **
	自営業・自由業	82	64.6	
	パート・アルバイト	540	49.1	
	専業主夫・主婦・無職	197	48.2	

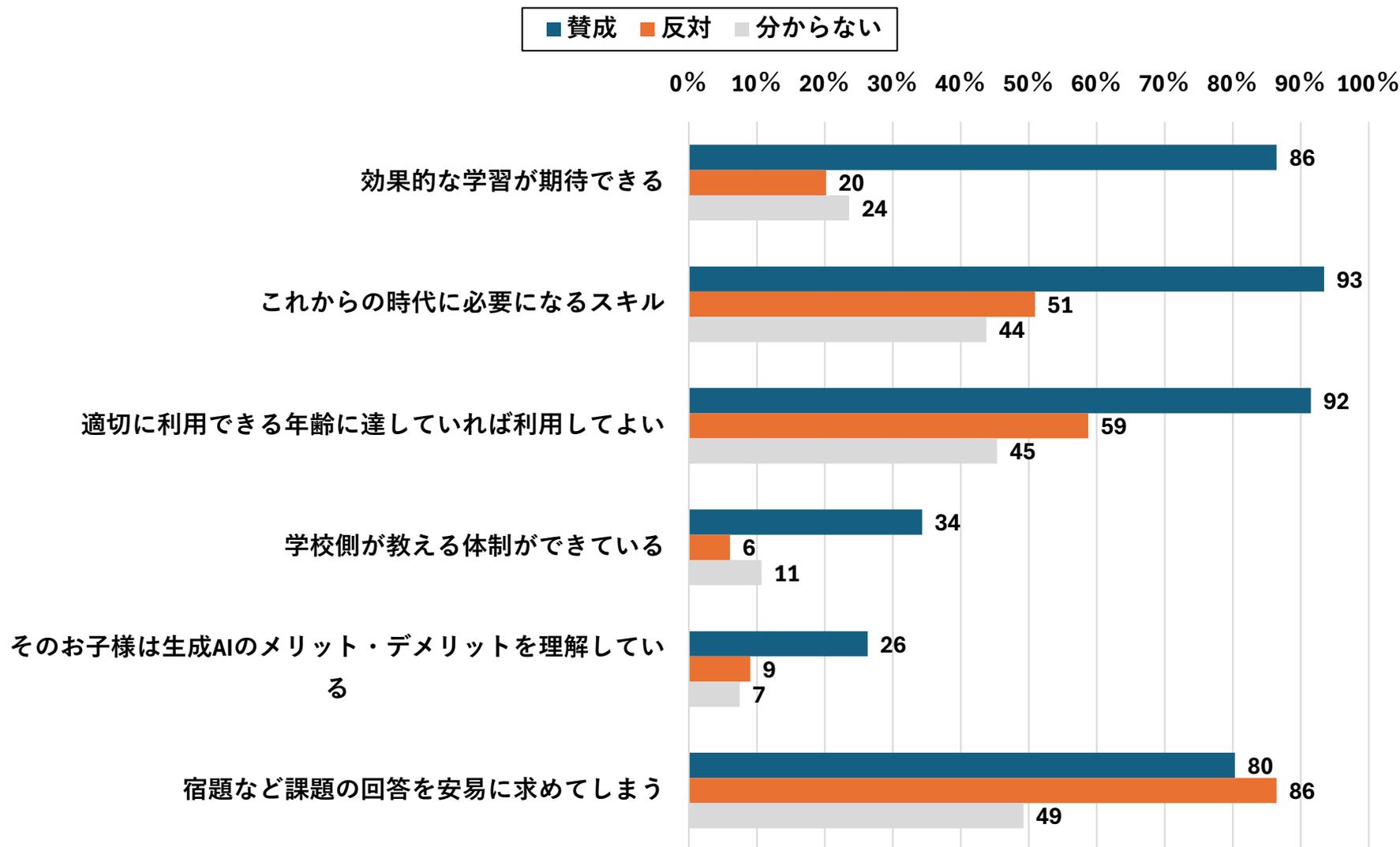
職業（性別・学歴・年収にも相関）との相関が高い



「学習効果への期待」や「これからの時代に必要」と思う割合が高い
また同程度「安易に回答を求めてしまう」も多い



「学習効果への期待」や「これからの時代に必要」「適切に利用できる年齢」は
賛否によって大きく分かれる



①「賛成・反対」と「分からない」を分ける

生成AIの理解

・正規社員 ・高学歴 ・男性 ・世帯収入が多い

→生成AIの利活用が広がると「分からない」が減る可能性

②「賛成」と「反対」を分ける

学習効果への期待**賛成傾向**

- ・「学習効果への期待」が高い
- ・「これからの時代に必要」と思う

賛成、反対同傾向

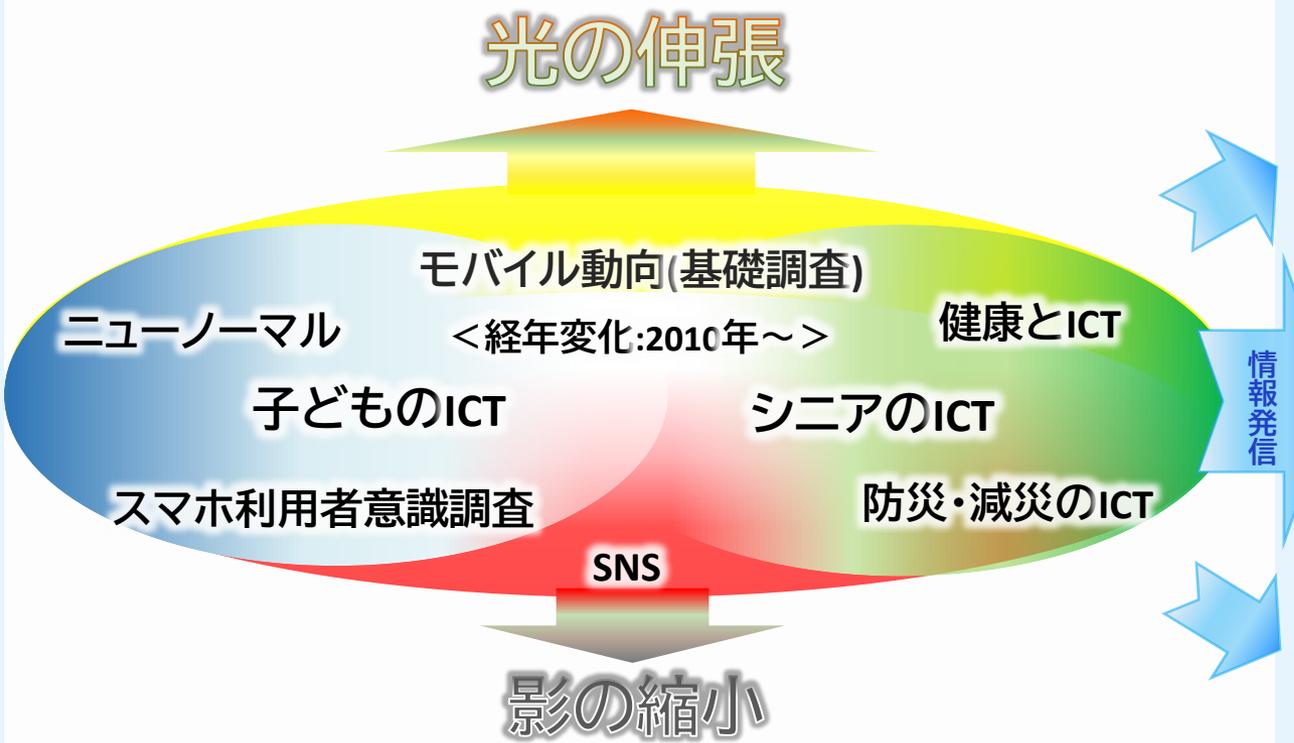
- ・「安易に答えを求める」が高い

→生成AIを具体的に学習に使うシーンの理解が進むと「賛成」が増える可能性

- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施



【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2024>

データで読み解くモバイル利用トレンド2024-2025



連携

(書籍・電子書籍)

<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>

連携

メディア掲載・データ引用・意見交換会等